

## 1. 各項目の特徴点、考察

自分の住んでいる街が住みよいかの問に対し、住みやすいと答えた方が全体の86.5%と各年齢性別を見ても、平均的に住みやすいと回答している。

逆に住みにくいと答えた方は、全体の約11%で20台と60代の女性が住みにくいと回答している。

どのような基準で判断したかでは、商店街・買い物・など日常生活面での利便性が22.3%、公共交通網・道路網の充実度が21.1%、地域での人間関係が19.7%、公園街並みなどの住環境設備の充実度が16.0%となっており、総括すると三河東地方は道路環境整備・大型量販店・公園等の町並み環境整備も行き届いており、人間関係も良いところから、非常に住みやすい街であると住民が評価している。

但し、教育関連環境の整備充実度と医療福祉施設の整備と利便性に住民は不満を持っており今後の豊川市の発展のための課題と言える。

医療機関の整備については、現状、新市民病院の建設中であり、改善される。

## 2. 地協の政策要望への反映課題

まだまだ、防災機能の強いまちづくりには成っていない。

公共施設の老朽・耐震対策・住宅等の耐震化・緊急情報システム等課題がある。

又、雇用の安定、就労支援等満足な状況とは言えない。

被災地への復興支援がれきの受け入れ処理の課題。

## 3. 連合愛知の要望書、行政への要請取り組みとしたい項目

### (地協独自では達成が困難な項目など)

市議会議員との距離感と議員を通しての市民の声・意見が行政に対し届いていないと感じている方が、全体の約80%を占めている。

現状の姿を見ると市民参加の市民生活優先した市政の推進・安心して活力のある地域社会の実現には程遠い。

## 4. その他(統一項目や他地協のアンケートと比較して気づいた点など)